

2019 年度特別支援学校と高等学校との交流及び共同学習実施事業

交流及び共同学習における取組例

県立芦屋特別支援学校

活動の実際（単元名）

交流及び共同学習「県西の授業を受けよう」

指導目標

- ・ 県立西宮高校の教師が担当する授業や本校の授業を県立西宮高校で開講し、県西生徒と共に授業を受けることで、共生社会の形成に向けて豊かな人間性と社会性を育む。
- ・ 相手校の生徒と協力して課題に取り組み楽しく関わりながら、お互いの理解を深め合う。

生徒の実態

全員が軽度の知的障害のある生徒で、肢体不自由をあわせ有する生徒も1名いる。また、緊張や不安によって適切なコミュニケーションがとりにくくなったり、少しこだわりが強くなったりと、情動調整が難しい生徒が数名いる。

事前学習

- ・ 共同学習の日程について
- ・ 英語事前学習
- ・ 体育事前学習
- ・ マナーやルールについて

学習活動（具体的な取組）

- 1 限 事前学習・準備
- 2 限 授業Ⅰ：高1職業（芦特）  
・「クリーン班」ーテーブル拭き
- 3 限 授業Ⅱ：中国語  
・「中国語」ー中国語を楽しもう
- 4 限 授業Ⅲ：美術、家庭、体育  
・「美術基礎」ー大きな絵  
・「フードデザイン生活科学」ー調理実習  
・「生涯体育」ーバドミントン
- 5 限 授業Ⅳ：「英語表現Ⅰ」ー動名詞
- 6 限 事後学習

支援と留意点

事前学習では一日の予定を視覚支援しながら説明する。授業内容についても説明をして、予習や準備が必要な内容については事前学習を行う。「英語表現」の授業の活動は、県西生用と芦特生用のワークシートを準備して、取り組むことができる課題設定する。授業中、芦特の教師は生徒を見守り、できるだけ生徒自身が主指導の教師や県西生に質問して自己解決できるように促す。

評価

前年同様、高等部1年生職業（クリーン班）のテーブル拭きの授業を行った。アビリンピックに出場した生徒の動画を見せ、授業のねらいを説明した。普段取り組んでいる授業の内容を県西の生徒に教える姿が見られ、相互理解はより深まったと感じた。両校の生徒が授業内容を十分に理解でき達成感を得られるために「英語表現」の授業は両校の教師で打ち合わせを重ね、課題設定を行った。その結果、両校の生徒とも主体的に活動できる時間を多くもつことができた。

活動の様子



芦特の「職業」の授業を県西で開講しました。テーブル拭きの手順を学び、一人ひとり実践しました。



「英語表現」では動名詞を使った文章を県西生と芦特生が協力して作り上げるアクティビティをしました。

事後学習

- ・ ふりかえり  
授業で一番楽しかったこと・がんばったことについて、新たな学びについてを書いて、発表した。その後、共同学習についてのアンケートと感想文を記入した。

成果と課題

交流及び共同学習を重ねることで本校の生徒が「自分たちとあまり変わらないじゃないか」という感想を書く県西生がいる。特に会話がスムーズな生徒は一見変わらないように見えるのだが、実際には克服すべき困難さをもって生活していることも知ってもらう工夫が必要である。障害がある人も「合理的配慮」があると同じ社会で生きやすくなるという説明も研修の中では行い、この社会は共に作っていく社会であることを今後も伝えていきたい。県西の先生方や生徒たちの細やかな配慮や工夫が感じられ、年々知的障害生徒に対する理解や意識が高まっていると感じる。